

第4期第2回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2018年6月19日（火）午前10：00～正午

〔場 所〕 町田市役所5階 会議室5-3

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、岩本 陽児（副会長）、太田 まゆみ、大野 浩子
白崎 好邦、鈴木 忠道、辰巳 厚子、中里 静江、古里 貴士
向井 美子、米倉 茂
以上 11名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、松田事業係長、齊藤担当係長（生涯学習総務課）、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕 陶山 慎治

〔傍聴人〕 1名

〔資 料〕 ・第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書（前回配布済）

- ・町田市生涯学習審議会の答申（前回配布済）
- ・町田市生涯学習に関する市民意識調査報告書
- ・報告事項 東京都公民館連絡協議会の活動について

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・6月市議会において以下の2件について一般質問があった。
 - ①陶芸スタジオでの事業の現状及び今後の見通しについて
 - ②講師派遣制度の終了について
- ・今年度の障がい者青年学級が始まり、今月上旬にひかり学級、土曜学級、公民館学級の開級式を順次行った。
- ・6月3日に恒例の利用者交流会を開催し、名古屋大学教授の辻浩先生に「誰もがしあわせ（仕合わせ）と信じられる仲間づくり」と題した基調講演をしていただいた。

（質疑応答）

委 員：講師派遣制度についての質問はどのようなものか。

センター長：講師派遣制度が廃止になったのは残念ということと、復活することはありませんか、という質問であった。

委 員：陶芸スタジオの施設利用について方向性はどのようなものか。

センター長：20年以上にわたって市民大学の講座として実施してきた経緯がある。大変な人気のあった講座であったが、ここ数年は申し込み者も減少し、2基の窯のうち一

基が老朽化のため故障し、講座の継続が難しくなった。方向性については議論の途中で結論は出ていない。

(2) 町田市生涯学習審議会の議論について（岩本副会長より）

今年度第1回は、6月の26日に開催予定とのことである。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について（白崎委員より）

これまでのところ、都公連の年1回の定期総会、月1回の委員部会に2回、第1回目の役員会、年6回程度のうち第1回目の研究大会の企画委員会に参加。今年度の予定としては、来年2月3日に第55回東京都公民館研究大会が東大和市で開催される。また、9月1日の委員部会の研修会がここ生涯学習センターで開催される。

11月1日・2日には第40回全国公民館研究集会東京大会が開催されるので、都公連からも補助員を10名協力する。

9月1日町田市で開催する研修会について、今回は社会教育に関する動き・流れについて「文部科学省組織改編と公立社会教育の所管問題から見える今後の公民館の課題」というテーマで、講師は長澤成次先生にお願いしている。

・2月3日の研究大会の「課題別集会」を企画担当するので、そこでのテーマの内容は未定。

(質疑応答)

委員：第1回研修会のテーマですが、中教審の生涯学習の部会で新しくワーキンググループを新しく立ち上げて2月から5月まで議論を重ねてきているところの、「公立社会教育施設の所管問題」についてか？

委員：そのとおり。

2 第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書

「地域における学習支援—生涯学習センターの役割と機能—」について（柳沼会長より）

〈協議会報告書に基づき内容説明〉（略）

(質疑応答)

委員：大学院の新設という記載について、この趣旨はどのようなものか。

会長：従来のことぶきコースの上級コースを設置するという構想である。従来半年～1年ごとのコースの上級コース（ここでは3年）を念頭に置いた大学院というものを設置してはどうかという、一つの構想である。

委員：講座のHATSの説明について、TはテクノロジーのTのようなのだが、あまりそういう講座は見当たらないようだが？

会長：人間科学がそれに該当する。発足当時のテーマが反映されている。

委員：意見として、世代間交流についてのお話があったが、その原因は何かというと、アップデートされていない、若い人が興味を持たない講座内容だからではないかと思われた。

委員：2017年度の事業報告はあるか。

事務局：現在原稿を作成中である。

委員：評価について、2ページのところで、のべ2万3千人という利用者があったようだが、募集人員に対して、応募者数が多い講座が多くある。講座に応募して漏れた人に対して、どのような対応をされているか。

会長：慢性的に抽選で、何年応募しても当たらないという人もおり、予算・人員の問題もある。今後どうしていくかについては、3回目以降に議論をしていきたいと思う。

3、町田市生涯学習審議会の答申（2018年3月）について（生涯学習総務課より）

<答申の説明>（略）

（質疑応答）

委員：運営協議会はこれをどのような形で活かして、取り込んでいけば良いのか。

会長：まずは情報を共有した上で、市の動きとしては7月により具体的な再編計画が出されるという状況を踏まえ、様々な立場からのご意見が必要になる。この場で皆様のご意見に反映し、議論を発展させていただければと思う。

委員：毎年諮問・答申が出されるのか。諮問・答申に対する成果はあるのか。

事務局（生涯学習総務課）：仕組として、もらった答申をどう受け止めるかということだが、今回で言えば、新しく作る教育プラン、生涯学習推進計画に反映させていく。また、公共施設の再編に向けた計画にも活かしていくものとして整理している。ちなみに、1期目も計画に反映された。2期目は計画の時期と外れていたため、個々の事業に反映させていった。

委員：7月の再編計画が出てからそれを受けてということか。

事務局（生涯学習総務課）：今回の答申は施設再編に踏み込んだものではないので、行政として受け止めて、再編計画を受け、改めて審議会のご意見をいただくということになる。

委員：情報を共有し反映していくというプロトコルがあればよいが、その点が心配になる。

4 町田市生涯学習に関する市民意識調査報告書について

< 報告書の説明 > (略)

(質疑応答)

委員：無作為抽出をするにあたって、対象の年齢とか男女別とかで相関はしてあったのかどうか。もう一つは、回答があった時点で、電話等で催促はしたのか。

事務局：年齢の割合に応じてという調整はしていない。居住地の割合についてはチェックしたが基本的には無作為である。回答がなかった場合、一定期間を空けて、礼状兼催促は行っている。

委員：多分捨てていると思う。電話催促するなどすると少し回答数があがるかと思います。これがデータとして一人歩きしてしまうので、収集する時点でなるべく信頼度の高いものとしていただきたい。

委員：意識調査の大きい流れとしては、どういう結果であったか60代から70代は結構回答率が高いが、80代を取っていないことに理由はあるか。

事務局：市役所内で行われる調査の一般的な方法と合わせている。正直あまり傾向は見られなかった。唯一大きく変わったのは、「広報媒体は何を見ますか」という問いに対し、「紙媒体」「広報を毎号読んでいる」が、前は39.8%で今回は27.8%と10%も落ちていた。「生涯学習 NAVI」は3.5%、前は3.0%ということで、これだけ少し上がっているが、誤差の範囲内かもしれない。全体に電子媒体を使う方の年齢層が上がっているのが前回の比較として現れている。

「センターを利用したことがありますか」という問いでは、2012年に調査した時は「生涯学習センター（中央公民館）」としたが、今回は（中央公民館という名称を外し）「生涯学習センター」としたことに影響するかわからないが、40ページのところ、「利用した」と回答したのが5.2%だったが、実は前は9%くらいであったので、いずれにせよ一桁台であり、5年経って認知度は依然低いということがわかる。施設の見直しが言われる中、課題を押さえていかなければならないところである。

委員：この資料はどこに活用されるのか。この報告書だけでは前回との比較もわからない。報告書の分析もされていない。調査結果だけが独り歩きして、施設の見直しの際、「利用者が少ないのでいらない施設である」といった方向に影響してしまうのでは。利用者が少ないけれどどういう価値を生み出したのかといった分析や、生涯学習部として、今回のアンケート結果に対し、どういう分析をしたのか。

事務局：分析に関して言うと、施設の今後の方向性を出すには、設問同士をクロスさせるなど、もっとしっかり分析したものを活用している。

会長：そういうものの資料は内部資料だけか。

事務局：施設の見直しで資料として出すには、何をどういうタイミングでどう出すかははっ

きりしていない。

会 長：ではどのように分析してどう出して欲しいという要望は出せるか。

事務局：内部でやっている手作業である。

委 員：これがホームページに載っているということだと、叩かれるにいい材料を提供しているようなものだと思う。

委 員：分析・視点についての意見を出し合うというのはどうか。

委 員：意識調査、意向調査、実態調査の3つに分かれる。意識調査と書かれているが、意識調査でないものがいっぱい含まれている。それから、この結果の内容が、昨年度最後の生涯学習審議会で発表された。もっと早ければ報告書に盛り込めたのにという残念がる意見が聞かれた。

5 その他

会 長：日程調査について、次回は7月17日10時から学習室2と9月18日15時から17時の視聴覚室は既に決定させていただいた。10月以降についてはまた事務局で再度調整させていただく。欠席者は最小限、均等に調整いたしたい。

(全体を通しての意見等)

委 員：まちチャレについて、人が集まらなかったのは、使いにくいからではないか。

委 員：今回は新任の委員のための勉強会ということで、3回目から本格的に議論を進めるのか。会議始まる前に、今日は何を行うのかの説明があった方が良いと思う。「市民大学」が始まっているので、委員の方には是非見学をしていただくとよい。

会 長：次回に話し合いのテーマを決めていく。テーマと、その議論の方法についても。話し合いのための土台が必要ですので、事前に意見を出していただきたいと思う。

委 員：事務局の立場でまず考えを示して欲しい。

委 員：運営協議会の役割について説明が欲しい。

会 長：テーマを決めるのが第3回で、何を話し合うかを決める。第1回と第2回で紹介した内容を土台に、第3回では自由に意見交換を行う。

委 員：前期の報告書をもとに考えていけば良いのか。いろいろと議題として上げられているので、ここからどのように展開していくかということでしょうか。

会 長：7月17日の会議までに、期日を設けそれぞれの委員から意見を出していただき、いただいたご意見について、修正なしで皆さんにお配りする。

委 員：議論するべきものは山ほどあって、月1回ほどしか集まらない私たちに結論が出せるわけがないのでは。その中から絞ったものを1つ提示していただいて、それについて話し合う方が良いのではないのでしょうか。センターとしての方針も入れていただきたい。

事務局：諮問・答申の会議ではありませんので、自由にご意見をいただくというのがこの会

議の趣旨である。

委員：話し合うべきは町田の生涯学習とは、ということなのか、個別のセンター事業についてなのか。

会長：運営協議会の役割についても共通認識として次回行いたい。

委員：事務局の問題意識を問いたい。

委員：生涯学習センター全体の予算は去年を1としたら、今年はどれくらいか。

事務局：次回以降、提示してゆく。